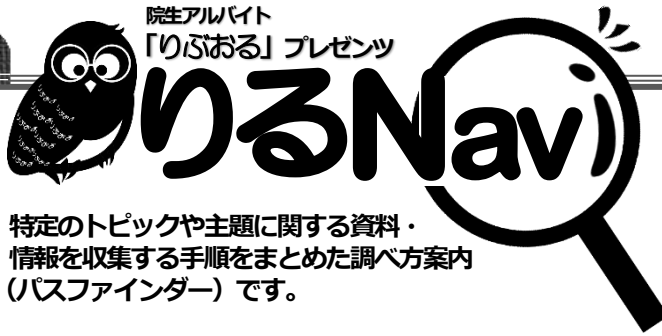


# 美学

Aesthetics



特定のトピックや主題に関する資料・  
情報を収集する手順をまとめた調べ方案内  
(パスファインダー) です。

りるNavi  
Ritssho University  
Library Learning Navigation

りぶおる  
学生アルバイト「りぶたま(Librarianの卵)」  
から発展した院生アルバイトの名称。  
知の象徴である鳥【Owl】から派生して  
名付けました。知識や知恵を集結させ  
て生かしていく姿が、大学院生たちの  
精鋭さを表しています。

## 美学とは

美学とは、美を対象とする、すべての学問的考察を指して言う。美の本質を問い、その原理を究明する形而上学としての美学のほか、様々な美的現象を客観的に観察し、法則的に記述しようとするところの科学的美学がある。日本語の「美学」はもともとドイツ語に由来し、西周(にしあまね)によって「善美学」や「佳趣論」などの言葉があてがわれ、森鷗外はこれを「審美学」と訳している。今日の美学の意味で初めて使用したのは、ライプニッツ-ウォルフ学派のバウムガルテンである。彼は、これまで理性的認識に比べて劣っているとされていた感性的認識の学を哲学の一部門として確立した。美とは感性的認識の完全なものにはかならないゆえ、感性的認識の学は同時に美の学であると考えた。ここに近代美学の方向が切り開かれたとされている。(『日本大百科全書』より引用)

## 分類 (NDC9版)

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分野
110	哲学各論
111	形而上学, 存在論
117	価値哲学
118	文化哲学, 技術哲学
119	美学
130	西洋哲学

分類番号	分野
131	古代哲学
132	中世哲学
133	近代哲学
701	芸術理論, 美学
702	芸術史, 美術史
770	演劇

## 辞典・事典

以下【 】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

- 『岩波哲学・思想事典』【103.3/H 71 品川2F参考/品川B2図書】 廣松渉[ほか]編,岩波書店,1998  
東西古今の哲学・思想、関連分野の事柄、人名、書名 4100 余項目を厳選した哲学事典。概念史的記述が重視されている。代表的な哲学事典の一つ。
- 『美学の事典 = Encyclopedia of aesthetics』【701.1/B 42 品川2F参考】 美学会,丸善出版,2020  
人間の感性はどのように動き、何に動かされてきたのか。理論からポップカルチャーまで幅広く解説する充実の一冊。
- 『美学事典』増補版【701.03/B 42 品川2F参考】 竹内敏雄編,弘文堂,1974  
独特の講座形式で展開される美学・芸術学の唯一の総合辞典。研究や創作に携わる人だけでなく、美術品を鑑賞する人の確かな目を養うにあたって活躍するであろう書である。

## 入門書

- 『美学入門』【701.1/N 34 品川B2図書】 中井正一,朝日選書,1975  
いろいろな世界で、本当の自分、あるべき自分、深い世界に隠れた自分に、芸術を通じてめぐり逢うことが美である。美とは、芸術とは、といった根底から問い直す美学入門書の王道の一冊。
- 『悲しい曲の何が悲しいのか：音楽美学と心の哲学』【761.1/G 34 品川2F参考/品川B1図書】 源河亨,慶応義塾大学出版会,2019  
悲しい曲で人は悲しくはならない。心の哲学を踏まえた美学の観点から、「音」とは、「聴取」とは何か、なぜ人は悲しい音楽を聴くのかなど様々なトピックについて考察している。

■ 『民藝とは何か』【080/講学/1779 品川1F文庫】 柳宗悦,講談社学術文庫,2006  
民藝運動の創始者であり、日本民藝館初代館長である著者の代表作。民衆が日常的に使う工芸品としての民藝、そこに見出だされる清貧の美とは何か？日本の美学追求の一派とも言うべき「民藝運動」の入門書でもある。

■ 『なぜ人は美を求めるのか：生き方としての美学入門』【701.1/Ko11 品川B1 図書】 小穴晶子,ナカニシヤ出版,2008  
古今東西の思想を比較しながら紹介し、我々が生きること自体、美を求めているということを書いた美学入門書。「美とともに生きること」の意味を探る。

■ 『美学への招待』【080/中新/1741 品川1F文庫】 佐々木健一,中央公論新書,2004  
あらゆる文化や文明の急速な変化に伴い、芸術の世界も様変わりしている。芸術が今突き付けられている課題を、私たちが日常抱く素朴な感想や疑問を手掛かりに解きほぐす美学入門書。

■ 『いきの構造』【080/青33/146-1 品川1F文庫】 九鬼周造,岩波文庫,1979  
「運命によって<諦め>を得た<媚態>が<意気地>の自由に生きるのが<いき>である」。日本民族に独自の美意識をあらわす「いき(粹)」という語の現象について、その構造と表現から明快に分析していく著者の代表作。

## 雑誌

■ 『立正大学哲学会紀要』【R-1/124 品川B3 紀要(新刊・目次は3F立正大学紀要コーナー)】 立正大学哲学会  
立正大学哲学会員の研究論文を収載する機関誌。哲学の全領域にわたる内容を対象としている。

■ 『美学』【705/1 品川B3 雑誌】 美學會編  
美学会が発行する、美学の機関誌・学術雑誌。2007年までは季刊、以降は半年刊のペースで発行。オンライン版はJ-STAGEにおいて公開されている。

■ 『悲劇喜劇』【905/5 品川B3 雑誌(新刊は3F開架雑誌コーナー)】 早川書房  
隔月刊。「せつない」という感情をいかに表現するか、演劇クリエイター15人がそれぞれ振り返ったり、ノーベル文学賞受賞者の作品がなぜ愛され続けているのかの特集を組んだり、単なる演劇情報誌にとどまらない。劇評文化の発展にちなみ、創刊65周年に際してハヤカワ「悲劇喜劇」賞を発足している。

## インターネット 学会サイト等

■ 『美学会』 <https://www.bigakukai.jp/>  
1949年に設立し、感性や芸術について哲学的に研究する美学・芸術学、美術、音楽、文芸、演劇をはじめ、近年ではポップカルチャー、サブカルチャーに関する芸術研究をしている。毎年10月に全国大会、東西の部会で年数回の研究集会を実施。

■ 『美学芸術学会』 <https://sasa.doshisha.ac.jp/>  
1998年に同志社大学美学芸術学研究室が中心となって立ち上げられた学会。年1回の学会員による研究発表と招待講演会、見学会や懇親会の実施や、学会誌『美学芸術学』の発行を軸とした活動を継続している。

■ 『日本民藝協会』 <https://www.nihon-mingeikyokai.jp/society/>  
日本民藝館が昭和11年に開館する2年前、昭和9年に柳宗悦を初代会長として設立された民藝運動の振興を主な目的とした団体。民藝運動は、手仕事の美しさを生活に取り入れ、心豊かな暮らしを実践していくことを目指す活動のこと。雑誌『民藝』の発行のほか、「民藝」に触れる各種勉強会の実施、展示即売の「日本民藝館展」、年に一度の全国大会も行っている。